

分野別目標総括シート

分野別目標5 磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている

<めざす姿>

○海をはじめとする自然、歴史、文化、食、スポーツ、商業施設などの多彩な資源が磨きあげられ、回遊性の高さやおもてなしなどにより、アジアの交流拠点として、世界中から人々が集まっています。また、福岡都市圏や九州各都市と連携し、魅力向上に向けた取組みや戦略的なプロモーションにより、九州全体の集客力が高まっています。

○都心に近い大濠公園、舞鶴公園一帯が、市民の憩いの場としての機能と、歴史、文化、観光の発信拠点としての機能を兼ね備えており、都市の顔として、その魅力の向上に重要な役割を果たしています。

○MICEの拠点都市や国際スポーツ大会の開催都市として国際的に認知されています。

施策		成果指標		重点事業 ※網かけは再掲	
名称	評価	指標項目	指標の達成状況	名称	進捗状況
施策5-1 観光資源となる魅力の再発見と磨き上げ	順調	入込観光客数 (日帰り)	A	日本で唯一の歴史資源活性化事業	A
		入込観光客数 (宿泊)	B	鴻臚館・福岡城の整備① (鴻臚館跡整備基本構想事業)	A
				鴻臚館・福岡城の整備② (福岡城跡整備基本計画事業)	A
施策5-2 緑と歴史・文化のにぎわい拠点づくり	順調	過去3年間に福岡城跡(舞鶴公園)に行ったことがある市民の割合	A	吉武高木遺跡環境整備事業	A
				クリエイティブフェスタ (クリエイティブ・エンターテインメント都市づくり推進事業)<再掲7-3> アジアフォーカス・福岡国際映画祭<再掲7-3>	B
施策5-3 情報アクセスや回遊性など、来街者にやさしいおもてなし環境づくり	順調	観光案内ボランティアの案内人数	A	農水産物のブランド化の推進 (ふくおかさん家(産地)のお気に入り事業～農産物ブランド化推進～) <再掲6-4>	A
				観光情報サイトのアクセス数(観光情報サイト「よかなび」の月間PV(ページビュー))	A
				水産物ブランド化・流通対策事業 <再掲6-4>	A
施策5-4 交流がビジネスを生むMICE拠点の形成	順調	国際コンベンション開催件数	A	福岡で「もう1泊」推進事業	B
				国内コンベンション誘致件数	A
				動物園再生事業<再掲4-4>	A
				美術館大規模改修・リニューアル事業<再掲1-4>	B
				セントラルパーク構想推進事業	A
				鴻臚館・福岡城の整備① (鴻臚館跡整備基本構想事業) <再掲5-1>	A
				鴻臚館・福岡城の整備② (福岡城跡整備基本計画事業) <再掲5-1>	A
				まち歩き観光ガイド・史跡めぐりの充実強化① (観光案内ボランティアの充実強化)	A
				まち歩き観光ガイド・史跡めぐりの充実強化② (歴史・文化遺産まち歩き)	B
				観光客にやさしいまちづくり事業①	D
				観光客にやさしいまちづくり事業②	B
				都心のまちづくりの推進 (都心のエリアマネジメントの推進) <再掲4-6>	B
快適で高質な都心回遊空間の創出事業(経済観光文化局)	A				
快適で高質な都心回遊空間の創出事業(住宅都市局)	A				
快適で高質な都心回遊空間の創出事業(道路下水道局)	A				
コンベンション機能強化の検討	B				
都心部とウォーターフロントとの交通アクセス強化の検討<再掲4-5>	B				
産学官民連携による国際競争力強化事業<再掲6-1>	A				
MICE誘致推進事業 (MICE開催支援等推進事業)	B				

施策		成果指標		重点事業 ※網かけは再掲	
名称	評価	指標項目	指標の 達成状況	名称	進捗状況
施策5-5 国際スポーツ大会の誘致やプロスポーツの振興	概ね順調	福岡市を活動拠点とするプロスポーツチームなどの主催試合観客数(福岡ソフトバンクホークスを除く)	C	国際スポーツ大会等の誘致・開催③(スポーツコミッション事業)	A
		スポーツ観戦の機会への評価(福岡市はスポーツ観戦の機会に恵まれた都市だと思う市民の割合)	A	国際スポーツ大会等の誘致・開催④(ラグビーワールドカップ2019開催地及びキャンプ地誘致調査・検討)	A
施策5-6 国内外への戦略的なプロモーションの推進	順調	福岡市への外国人来訪者数	A	アビスパ福岡活用・支援	B
		外航クルーズ客船の寄港回数	A	拠点体育館整備<再掲1-5>	A
				観光プロモーション事業(消費・投資・重点)	A
				戦略的情報発信事業(重点)<旧:国内外観光プロモーション事業>	A
				欧州プロモーション事業	A
				クルーズ客船誘致活動の推進・受入体制の充実強化①外国クルーズ客船受入事業(A)	A
				クルーズ客船誘致活動の推進・受入体制の充実強化②外国クルーズ客船受入事業(B)	A
				クルーズ客船誘致活動の推進・受入体制の充実強化③(クルーズ客船誘致事業)(調査振興費)	B

施策評価シート

目標5	磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている		
施策5-1	観光資源となる魅力の再発見と磨き上げ		
施策の方向性	<p>福岡市が有する歴史文化資源を市民の財産として保存・整備し、アジアとの交流や祭り、コンサートや観劇、展覧会などのさまざまなイベント、美しい街並み、商業施設、食文化や自然環境などと共に、福岡市の貴重な観光資源として、誰もが親しみやすいストーリー性を付加しながら磨き上げるなど、官民一体となった集客戦略を推進します。</p> <p>また、福岡都市圏や九州各都市と連携し、それぞれがもつ特色ある観光資源を合わせ、エリアとしての魅力向上を図ります。</p>		
施策主管局	経済観光文化局	関連局	農林水産局、住宅都市局

《施策事業の体系》 ★：新規事業、◆：区事業 / 太字：重点事業、その他：主要事業

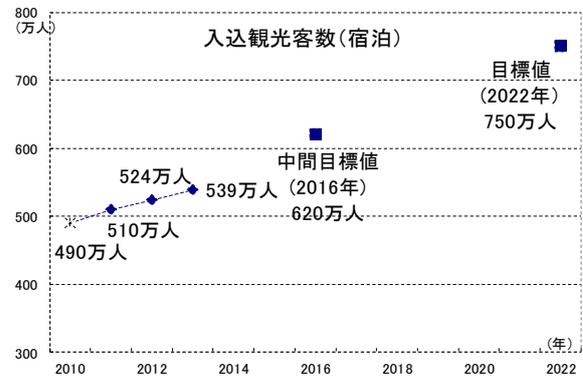
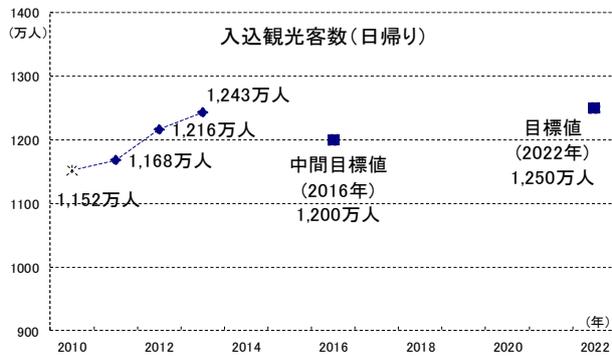
(施策5-1)観光資源となる魅力の再発見と磨き上げ

- 福岡の歴史資源の観光活用
 - 日本で唯一の歴史資源活性化事業(鴻臚館・福岡城、元寇防塁、志賀島等)
 - 鴻臚館・福岡城の整備〔鴻臚館跡整備基本構想事業、福岡城跡整備基本計画事業、福岡城集客機能検討〕
 - ★黒田官兵衛プロジェクト
 - 吉武高木遺跡環境整備事業
 - 庚寅銘大刀保存活用事業
 - ◆博多ライトアップウォークの推進<再掲:博多区>
 - ◆地域密着型の集客・まちづくり<再掲:博多区>
 - ◆中央区歴史・文化を生かしたまちづくり推進事業<再掲:中央区>
- 祭り・食・文化・エンターテインメント魅力の磨き上げ
 - アジアン・パーティ
〔クリエイティブフェスタ<再掲7-3>、アジアフォーカス・福岡国際映画祭<再掲7-3>、アジア太平洋フェスティバル、福岡アジア文化賞<再掲8-6>〕
 - 農水産物のブランド化の推進
〔「ふくおかさん家(産地)のお気に入り」事業、★水産物ブランド化・流通対策事業、★一次製品のアンテナショップ等検討(一次産品海外マーケティング拠点施設検討事業)、★カキ養殖新技術推進事業〕<再掲6-4>
 - 福岡で「もう1泊」推進事業、夜の観光資源魅力強化事業
 - 山笠魅力発信事業
 - 動植物園再生事業<再掲4-4>
 - 美術館大規模改修・リニューアル事業<再掲1-4>
 - ★博物館の歴史・文化観光拠点化事業
 - 特色ある公園づくり事業(友泉亭、金印公園、海の中道海浜公園)
<再掲4-4>
 - ◆さわら魅力アップ事業(★サザエさん通りを生かしたまちづくり、さわらの秋等)
<再掲:早良区>

1 指標

《成果指標》

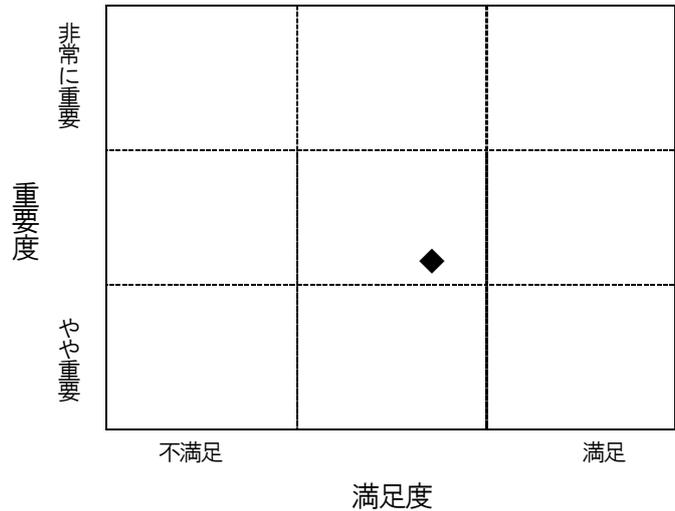
	初期値	現状値	中間目標値 (2016年度)	目標値 (2022年度)	達成状況
入込観光客数 (日帰り)	1,152万人 (2010年)	1,243万人 (2013年)	1,200万人	1,250万人	A
入込観光客数 (宿泊)	490万人 (2010年)	539万人 (2013年)	620万人	750万人	B



《市民満足度調査 (2013 年度調査) 》

満足度		重要度	
満足	29.7%	重要	54.1%
不満足	17.7%	非重要	7.0%
どちらでもない	49.9%	どちらでもない	34.7%

満足度と重要度の分布 (平均評定値) 【9 区分評価】



2 現状分析

(1) 成果指標等の分析

- ・H25 は、同年3月に策定した「福岡 観光・集客戦略 2013」に基づく福岡城・鴻臚館等の観光活用、フィギュアスケートグランプリファイナル等の大型 MICE の開催支援や戦略的な誘致の取組みに加え、円高の是正、航空路線の利用拡大等の結果、日帰り客、宿泊客ともに増え、入込観光客数全体としては2年連続で過去最高を更新した。
- ・H26 における市内の宿泊施設 (従業者数 10 人以上) の客室稼働率は、観光庁の調査結果で年平均 80.4% となっており、近年では上昇傾向にある。(H25 : 76.6%, H24 : 73.0%)

(2) 主な事業の成果

●福岡の歴史資源の観光活用

- ・大河ドラマ放映を好機と捉え、官民を挙げて、歴史資源を観光・集客に活用した様々な事業を展開することで、大河ドラマによる県内の経済波及効果は279億円(推計)。
- ・福岡城むかし探訪館では、福岡城を最新のデジタルコンテンツ技術を用いて体験できるガイドツアーを実施し、軍師官兵衛ドラマ展開催などの集客促進に取り組むことと、旧舞鶴中学校跡地及び校舎を活用して、福岡城・鴻臚館案内処三の丸スクエアを設置し、休憩施設・展示施設等のおもてなし環境を整備したことで、来館者数が対前年比で 83.4%増加 H25 : 40,314→H26 : 73,925 (+33611 人増)。
- ・福岡城跡整備については、「福岡城跡整備基本計画検討委員会」を開催して基本計画の検討を行った上で、基本計画を策定。
- ・また、市民と一体となった整備を推進するため、「福岡城整備基金」を設置。
- ・吉武高木遺跡の整備について、中央広場・遺構ゾーン B の工事に着手し、造成工事を実施。
- ・鴻臚館整備については、「鴻臚館跡整備検討委員会」を開催して鴻臚館跡整備基本構想の検討を行った上で、基本構想を策定。

- ・庚寅銘大刀について、埋蔵文化財センターにおいて公開(H27. 1. 23～3. 31)し、2,481名の来館者があった。H26nは庚寅銘大刀の保存処理事業の記録映像を製作し、4月よりホームページにて公開中。
- ・元寇防塁については、元寇防塁の案内板整備及びリーフレットの作成を行うとともに、付近を通る福岡マラソンを契機に、元寇防塁の認知を高めるために、のぼりや横断幕を作成・設置。
- ・志賀島については、志賀島のPR及び回遊性の向上を目的に、地元との共働により、志賀島のガイドブック「ようこそ志賀島」を作成。また、九州産業大学と連携して、志賀島の地域振興・観光振興を目的に学生が主体的となって企画・運営したイベントを実施。

●祭り・食・文化・エンターテインメント魅力の磨き上げ

- ・「福岡よる旅プロジェクト」を立ち上げ、「福岡よる旅」タイアップ、コラボ企画等の取組、「福岡夜博」の開催など全国へ向けた情報発信や話題づくりを実施。(7つの「福岡よる旅」コラボ企画を実施。「福岡夜博」では61イベントが参加。)
- ・市内農水産物の販路拡大のためマーケティング拠点施設(博多^{ハカタハウス}家)を開設(H26. 11)。唐泊恵比須かき等市内産水産物を市民や観光客に供するレストラン機能と海外有名シェフやバイヤーとの商談会を開催(H26n:1回)する機能あり。
- ・市内産農畜産物を使った新製品開発、ブランド化に取り組んでおり、H26nは新規4商品(試作中含む)の開発を実施。
- ・大正・昭和期の貴重な歴史建築物である旧高宮貝島邸において、民間活力の導入を図り、保存・活用するため、調査・検討を実施。
- ・志賀島の金印公園について、地域の意見を取り入れながら、実施設計を実施。
- ・動物園のリニューアルについては、「センターゾーンエリア」に着手。H27nは、動物園ペンギン展示施設及び植物園駐車場整備の基本設計実施予定。
- ・「アジアンパーティ」として、「アジアと創る」をコンセプトに、アジアフォーカス・福岡国際映画祭、福岡アジア文化賞、アジア太平洋フェスティバル、The Creators、福岡アジア美術トリエンナーレなどの主要事業に加え、アジアとクリエイティブをテーマとした民間企業・団体などの各種事業と連携を図りながら、9月～10月に集中開催。(21事業、約46万5千人が参加)
 - *アジアフォーカス・福岡国際映画祭：219本の優れたアジア映画を上映したほか、監督や出演者を招いたイベントを実施(来場者数：30,824人)
 - *The Creators：市役所西側ふれあい広場で、福岡を代表するアイドルグループと地元のクリエイティブ企業が連携し、LED映像と音楽のコラボレーションによるインタラクティブステージを実施。(来場者数：延べ8,000人(過去最高))
 - *アジア太平洋フェスティバル福岡：アジア太平洋の伝統芸能やポップカルチャーの後援、観光プロモーション、名物料理、特産品の販売などを実施。：来場者数(約96,000人)
- ・美術館リニューアルについて、H30n竣工を目指しPFIを事業手法として決定し、事業者公募に向け特定事業の選定を実施。
- ・博物館が蓄積してきた歴史文化資源を、情報コンテンツ「てくてくミュージアム」として再構築し、AR技術等を活用した常設展示室と、博物館を起点とする歴史観光ルートをリンクさせて、スマートフォンアプリに提供。

(3) 施策推進上の課題

- ・社会経済情勢の変化等(新たな制度創設や法改正など国や県の動向・状況変化等)
- ・施策、事業を進めていく上での主な課題
- ・少子高齢化が進展し、世界規模での都市間競争が厳しさを増す中、福岡市の発展と成長を図るには、国内外との交流による経済活性化が必要。特に、観光産業は、裾野が広く、市民の9割が従事する第3次産業への波及効果も高いなど、福岡市の特性にあった産業である。
 - *観光客の消費金額3,213億円、経済波及効果4,680億円。3.3万人の雇用、51.2億円の税収が発生(H22推計値)

*目標： 観光客数 H22：1,642万人 →H34：2,000万人
観光客による直接消費額 1,700億円増

●福岡の歴史資源の観光活用

- ・発地側での訴求力、着地側での満足度を高めるため、イメージを具体化する情報発信や商品開発、イベント等を実施できる体制づくりが必要。
- ・大河ドラマの盛り上がりが一過性のものになり易く、放映終了後も、歴史資源の観光活用に向けた継続した取り組みが必要
- ・回遊拠点である三の丸スクエア、むかし探訪館への集客向上を図り、福岡城・鴻臚館エリアの魅力向上を図ることが必要。
- ・元寇防塁については、点在している史跡の保存整備について、観光の視点での魅力が不十分。
- ・志賀島については、市街化調整区域の振興等との関係から、市全体の進め方を踏まえながら、魅力向上を検討することが必要。
- ・鴻臚館跡の保存活用に向けた適切な整備計画の策定、鴻臚館跡全容の未解明部分の計画的な調査が必要。
- ・吉武高木遺跡は、市内に残る貴重な歴史的資産として周知し、地域住民に限らず市民全体の史跡に対する理解を深めることが必要。
- ・庚寅銘大刀についてはH27nに復元品、H28nにレプリカを作成予定であり、国の重要文化財指定になるよう文化庁の協議が必要。

●祭り・食・文化・エンターテインメント魅力の磨き上げ

- ・山笠・どんたくに代表される祭り、アジア太平洋フェスティバル・アジアフォーカス福岡国際映画祭やミュージックシティ天神などのイベント、また、魚介類・博多ラーメン・もつ鍋・水炊き・屋台など「食」の魅力、さらに、文化・スポーツ・エンターテインメントなど、豊かな魅力を持っているが、来福客に十分に伝わっていない。
- ・農畜水産物の新製品開発、ブランド化については、特に、唐泊恵比須かきは全国コンテストで2位となり、カキ小屋が人気を博し、海外販売が軌道に乗りつつあるなど、一定の成果を上げているが、観光資源となるにはさらなる取り組み強化が必要。
- ・特色のある公園づくりや動植物園の再生においては、相当の事業費が必要であるため、民間活力の導入など積極的な検討が必要。
- ・「福岡夜博」は、限られた予算の中で民間の協力が不可欠であり、どのように巻き込んでいくのか検討が必要。
- ・発地側での訴求力、着地側での満足度を高めるため、イメージを具体化する情報発信や商品開発、民間主体のイベント等を推進できる体制（実行委員会等の設置）づくりが必要。
- ・金印公園、友泉亭公園など高い歴史文化資源を有する公園について、さらなる活用の検討が必要。
- ・動物園再整備においては、動物の個別的特徴や管理安全面に配慮しつつ、来園者の視点からの魅力づくりや「また来たい」と思わせる特別な仕掛けづくりが必要。
- ・美術館大規模改修・リニューアル事業については、ユニバーサルデザインへ対応するとともに、時代や市民のニーズに応える集客交流拠点として魅力向上を図ることが必要。
- ・博物館を歴史文化観光情報の発信拠点とするために、「人」「情報」「多言語」の3つの視点のバランスをとりながら事業の推進が必要。

3 施策の評価（1・2を踏まえた施策の進捗状況）

順調

- ・成果指標はいずれも増加している。
- ・福岡城デジタルコンテンツ技術を用いた体験ツアー、動物園「センターゾーンエリア」リニューアル、旧高宮貝島邸の活用や金印公園の再整備、福岡城整備基本計画及び鴻臚館跡整備基本構想など、事業は概ね順調に進んでいる。

4 今後の取組みの方向性

●福岡の歴史資源の観光活用

- ・福岡城整備については「福岡城跡整備基本計画」(H26.6 末策定)に基づき、H27n は、潮見櫓復元に向けた部材確認調査を実施予定であるとともに、「福岡城整備基金」のPRを図り、市民と一体となった整備を推進。
- ・鴻臚館整備についてはH27.3 に策定した「整備基本構想」を踏まえ、H27n に「整備基本計画」を検討し、H28n に策定予定。
- ・福岡城・鴻臚館整備は大濠公園と舞鶴公園の一体化利用を図るセントラルパーク構想を連携しながら実施。
- ・吉武高木遺跡については、H28n の公開を目指して、中央広場・遺構ゾーンBの工事を継続。史跡の有効な活用には地域との取り組みが必要であるため、継続して地域と協議継続。
- ・庚寅銘大刀保存活用事業については、詳細な報告書を作成予定。国指定の重要文化財になるよう文化庁と協議し、また来館者増につなげられるよう博物館の常設展示の目玉の一つとする予定。
- ・近くを通る福岡マラソンの実施に併せて、元寇防塁に対する認知度を高め、魅力をPR。
- ・志賀島については、地元や企業、九州産業大学と連携し、食や景色・景観、歴史資源のPR、情報発信を強化。また、10月に博物館で開催される奴国展に併せて、認知度の向上及び魅力発信を実施。
- ・大河ドラマの盛り上がりを一過性のものとせず、放映終了後においても、歴史観光への関心の高まりを低下させないように、三の丸スクエア及びむかし探訪館において、福岡城・鴻臚館エリアの総合ガイドンス・観光PRの拠点として相応しい施設となるよう、民間企業・団体と共働でイベントや広報を行うなど、集客向上に向けた取組みを推進。

●祭り・食・文化・エンターテインメント魅力の磨き上げ

- ・アジアンパーティについては、各事業の統一感を一層強化するとともに、民間の事業と連携を図っていく。
- ・アジアフォーカス・福岡国際映画祭については、アジアンパーティの主要事業の1つとして、映画だけでなく、映像分野を一体的に振興し、効果的な広報に努めることで、『クリエイティブ・エンターテインメント都市・ふくおか』のブランディングを推進。
- ・「The Creators」とアジア太平洋フェスティバル福岡については、H27n より統合し、アジアンパーティの新たな中核イベントとして開催し、さらなる集客とブランディングを図るとともに、異業種間の連携促進によるビジネス創出やクリエイティブ関連産業の集積を支援。
- ・「福岡よる旅」のイメージを定着させるため、夜の観光の効果的な情報発信や「福岡夜博」を継続。
- ・美術館大規模改修・リニューアル事業については、H27.4 に入札公告、H28.2 に本契約締結を実施予定。
- ・博物館においては、展覧会をはじめとする公開事業等を通じて、資料の歴史文化資源としての価値創出に努めるとともに、ユニバーサルなおもてなしの場として、来館者満足度の一層の向上を図る。
- ・動植物園再生事業については、人と地球にやさしい飼育及び植生環境と来園者の更なる利便性の改善を行うとともに、まちと自然が調和した快適な都市型動植物園へとリニューアルを推進。今後、H32n までに動物園正面エントランス部(センターゾーン)を中心に整備を行い、H33n 以降は「アフリカの草原エリア」、「日本の自然エリア」をはじめとする区域を整備。
- ・唐泊恵比須かきをはじめとする市内一次製品の更なるブランド化・販路拡大に向け、マーケティング拠点施設(博多家^{ハカタハウス})を活用したPR・商談等や養殖新技術の推進に引き続き取り組むとともに、その他の農畜水産物についてもブランド化、新商品開発を推進。

事業一覧

分野別目標	5 磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている
施策	5-1 観光資源となる魅力の再発見と磨き上げ

日本で唯一の歴史資源活性化事業		所管課	経済観光文化局観光コンベンション部観光振興課	26年度事業費	22,250 千円
				27年度事業費	45,230 千円
対象	福岡市内外	目的	「日本に一つしかない」重要な歴史・文化資源(鴻臚館跡, 福岡城跡, 元寇防塁, 志賀島など)を観光資源として更に磨き上げ, 魅力向上に取り組んでいく。		
前年度実施内容	【鴻臚館、福岡城】福岡城むかし探訪館では、タブレットツアーの実施や、軍師官兵衛ドラマ展による集客促進の取組みを進めた(H25: 40,314→H26: 73,925 84%増)。旧舞鶴中学校跡地及び校舎を活用して、休憩施設・展示施設等のおもてなし環境を整備した。 【元寇防塁】元寇防塁の案内板整備及びリーフレットの作成を行うとともに、付近を通る福岡マラソンを契機に、元寇防塁の認知を高めるために、のぼりや横断幕を作成・設置した。 【志賀島】地元との共働により、回遊性を高める情報ツール「ようこそ志賀島」を作成した。また九州産業大学と連携してイベントを実施した。				
	指標内容	26年度目標	26年度実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	デジタル回遊システムツアー参加者数	5,000	5,988	120%	A
成果の指標	福岡城むかし探訪館来館数	36,000	40,314	112%	
事業の進捗状況に関する補足	-				
分野別目標	5 磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている				
施策	5-1 観光資源となる魅力の再発見と磨き上げ				

鴻臚館・福岡城の整備①(鴻臚館跡整備基本構想事業)		所管課	経済観光文化局大規模史跡整備推進課	26年度事業費	5,166 千円
				27年度事業費	3,392 千円
対象	国史跡鴻臚館跡	目的	鴻臚館跡を適切に保存・整備し、その歴史的価値を確実に次世代に継承すると共に、多くの市民や観光客を引きつける場所にする。		
前年度実施内容	(株)アーバンデザインコンサルタントに委託を行い、鴻臚館跡整備のための基本構想の検討作業を行った。基本構想の検討については、学識経験者からなる「鴻臚館跡整備検討委員会」において、意見交換等を行った。				
	指標内容	26年度目標	26年度実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	整備構想・計画の策定(単位: %)	50	50	100%	A
成果の指標	鴻臚館跡展示館の入館者(単位: 人)	28,000	36,950	132%	
事業の進捗状況に関する補足	-				

鴻臚館・福岡城の整備②(福岡城跡整備基本計画事業)		所管課	経済観光文化局大規模史跡整備推進課	26年度事業費	0 千円
				27年度事業費	0 千円
対象	国史跡福岡城跡	目的	福岡城跡を適切に保存・整備し、その歴史的価値を確実に次世代に継承すると共に、多くの市民や観光客を引きつける場所にする。		
前年度実施内容	・学識経験者等からなる「福岡城跡整備基本計画検討委員会」を開催して基本計画の検討を行った上で、(株)プレック研究所に委託し、基本計画原案を作成した。				
	指標内容	26年度目標	26年度実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	基本計画の策定進捗率(単位: %)	100	100	100%	A
成果の指標	福岡城むかし探訪館の入館者数(単位: 人)	55,000	73,925	134%	
事業の進捗状況に関する補足	-				

吉武高木遺跡環境整備事業		所管課	経済観光文化局文化財保護課	26年度事業費	52,764 千円
				27年度事業費	101,845 千円
対象	市民	目的	早期整備を行い史跡地を一般に公開するとともに、市民が主体的に活用できる場として提供する。		
前年度実施内容	中央広場、遺構ゾーンBの工事着手(造成工事の実施) 地元団体との協議により整備・活用に関する検討を行う 吉武高木遺跡整備指導委員会を開催し、整備内容に関する指導・助言を受ける				
	指標内容	26年度目標	26年度実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	整備工事完了面積(m ²)	27,000	27,000	100%	A
成果の指標	-	-	-	-	
事業の進捗状況に関する補足	-				

福岡で「もう1泊」推進事業		所管課	経済観光文化局観光コンベンション部観光産業課	26年度事業費	16,512	千円
				27年度事業費	3,200	千円
対象	観光客	目的	福岡の夜の魅力の情報発信により、観光客に実際に訪れてもらい、福岡での夜の回遊や長期滞在(宿泊)を促す。			
前年度実施内容	「福岡よる旅」を活用した夜の観光のブランド化、イメージの確立と全国へ向けた情報発信や話題づくり。 ○「福岡よる旅」プロジェクトの結成 ○「福岡よる旅」プロモーション ①メディア交流会(東京プロモーション) ②「福岡よる旅」サポーターズの結成 ③「福岡よる旅」WEB開設 ④「福岡よる旅」コラボ企画 ○「福岡夜博」の開催					
	指標内容	26年度目標	26年度実績	達成率	事業の進捗状況	
活動の指標	—	—	—	—	B	
成果の指標	—	—	—	—		
事業の進捗状況に関する補足	民間事業者による「福岡よる旅」のイメージを活用する様々な企画が行われている。					

施策評価シート

目標5	磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている		
施策5-2	緑と歴史・文化のにぎわい拠点づくり		
施策の方向性	都心に近い貴重な緑地空間として広く市民に親しまれている大濠公園・舞鶴公園の一体的な活用を図り、市民の憩いと集客の拠点づくりを進めます。特に舞鶴公園については、歴史文化資源である「鴻臚館跡」、「福岡城跡」の二つの国史跡を活用した整備を進めます。		
施策主管局	住宅都市局	関連局	経済観光文化局

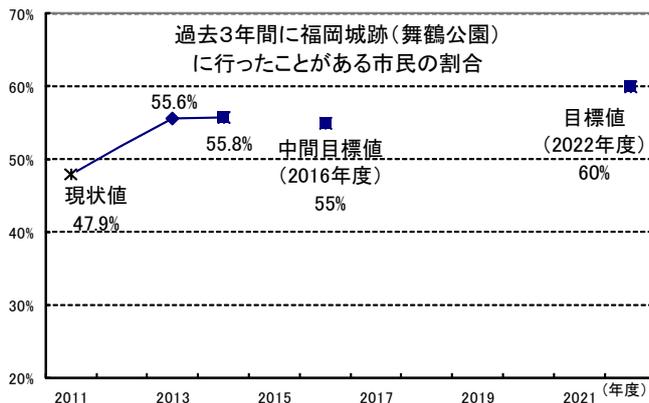
《施策事業の体系》 ★：新規事業、◆：区事業 / 太字：重点事業、その他：主要事業



1 指標

《成果指標》

	初期値	現状値	中間目標値 (2016年度)	目標値 (2022年度)	達成状況
過去3年間に福岡城跡(舞鶴公園)に行ったことがある市民の割合	47.9% (2011年度)	55.8% (2014年度)	55%	60%	A

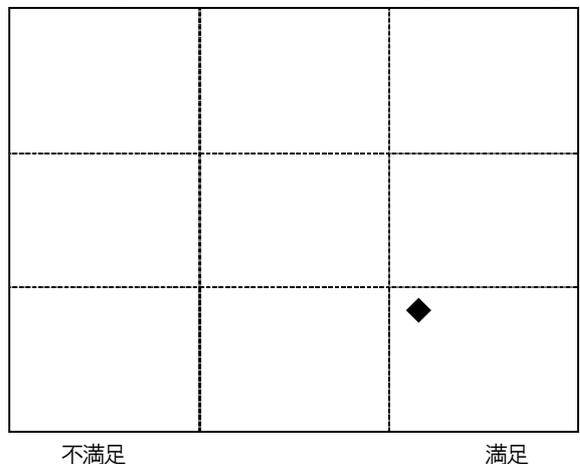


《市民満足度調査(2013年度調査)》

満足度		重要度	
満足	34.8%	重要	48.4%
不満足	11.6%	非重要	8.3%
どちらでもない	50.7%	どちらでもない	39.1%

非常に重要
重要度
やや重要

満足度と重要度の分布(平均評定値)【9区分評価】



不満足

満足度

満足

2 現状分析	
(1) 成果指標等の分析	
<ul style="list-style-type: none"> 関係者が連携した様々な取組みにより来園者が増加しているが、今後、各計画に基づく整備を進める中で、市民の関心や満足度がどのように推移するか注視する必要がある。 	
(2) 主な事業の成果	
<p>●市民の憩いと集客の拠点づくり（大濠公園・舞鶴公園の一体的な活用等）</p> <ul style="list-style-type: none"> 大濠公園と舞鶴公園の一体的な活用を図る「セントラルパーク構想」を策定（H26.6） 福岡城跡を適切に保存し、整備、活用を推進するための「福岡城跡整備基本計画」を策定（H26.6） 鴻臚館跡の適切な保存や、整備、活用の方向性を示す「鴻臚館跡整備基本構想」を策定（H27.3） 高等裁判所敷地及び舞鶴中学校跡地を都市計画公園区域に追加（H26.9, 42.4ha→46.9ha） 天守台や御高屋敷において、回遊性向上を図るための環境整備を実施。（天守台：鋼製階段改修・手摺り付木製階段設置、御高屋敷：園路改修、石碑周辺整備、外周フェンス撤去等） 本丸・二ノ丸において、樹木整理による見所づくり（石垣や櫓の顕在化等）を実施。 福岡城さくらまつりを開催（H27.3～4、過去最高の約30万人が来場） 舞鶴中学校跡地の校舎を活用したガイダンス・休憩施設「三の丸スクエア」をオープン（H26.11） 福岡城整備を市民と一体となって推進するための「福岡城整備基金」を創設（H26.7） <p>*H27.3 現在：寄付件数 289 件、寄付金額 8,225,019 円</p>	
(3) 施策推進上の課題	
<ul style="list-style-type: none"> 社会経済情勢の変化等（新たな制度創設や法改正など国や県の動向・状況変化等） 施策、事業を進めていく上での主な課題 	
<p>●市民の憩いと集客の拠点づくり（大濠公園・舞鶴公園の一体的な活用等）</p> <ul style="list-style-type: none"> 非史跡施設（福岡高等裁判所、城内住宅、運動施設等）の早期城外移転が必要。*城内住宅移転率：71% 着実な構想実現に向けて推進体制の強化（県市の連携、行政分野間の連携等）が必要。 樹木整理や修景・再整備に関する市民理解（緑への愛着、生物多様性等）の向上が必要。 鴻臚館跡・福岡城跡と二重の国史跡指定を受けている貴重な場所であり、観光地としての活用も踏まえながら、復元整備に向けた検討が必要。 福岡城跡の整備推進に向けて、財源の確保および市民等の参加意識や愛着の醸成等が必要。 鴻臚館跡の整備推進に向けて、適切に保存活用するための計画策定、未解明部分の計画的な調査が必要。（発掘調査完了率：3.7ha/48.0ha=7.7%） 舞鶴中学校跡地の民間活用による駐車場について、早期整備に向けた国に対する働きかけが必要。 	
3 施策の評価（1・2を踏まえた施策の進捗状況）	順調
<ul style="list-style-type: none"> 成果指標は増加している。 セントラルパーク構想、福岡城整備基本計画及び鴻臚館跡整備基本構想の作成など、事業は順調に進んでいる。 	
4 今後の取組みの方向性	
<ul style="list-style-type: none"> 両公園の一体的な管理運営に向けて、県市の公園部局や指定管理者からなる連絡会議を設置（H27n 早期） 「セントラルパーク基本計画」について、専門家等からなる検討委員会を設置し、検討を推進。 非史跡施設の移転について、関係機関と連携しながら、具体化・事業化に向けた検討を推進。 福岡城跡の整備について、「福岡城跡整備基本計画」に基づき計画的に実施するとともに、「福岡城整備基金」のPRを図り、市民と一体となった整備を推進。 鴻臚館跡の整備について、「鴻臚館跡整備基本計画」の検討を推進（H28n 策定予定） 三の丸スクエアについて、福岡城・鴻臚館エリアの総合ガイダンス・観光PRの拠点として相応しい施設となるよう、集客向上に向けた取組みを推進。 舞鶴中学校跡地の民間活用による駐車場について、国に対する働きかけを実施。 	

事業一覧

分野別目標	5 磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている
施策	5-2 緑と歴史・文化のにぎわい拠点づくり

セントラルパーク構想推進事業		所管課	住宅都市局みどりのまち推進部 みどり政策課	26年度事業費	11,000 千円
				27年度事業費	112,662 千円
対象	①県民・市民 ②国内外からの来街者	目的	①都心に近い貴重な緑地空間である大濠公園・舞鶴公園が、一体となって日常的な憩いの場として利用されている状態 ②両公園が本市の貴重な観光資源として磨き上げられ、魅力的な観光地となっている状態		
前年度実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・大濠公園と舞鶴公園の一体的な活用を図る「セントラルパーク構想」を策定（H26.6） ・福岡城跡を適切に保存し、整備、活用を推進するための「福岡城跡整備基本計画」を策定（H26.6） ・鴻臚館跡の適切な保存や、整備、活用の方向性を示す「鴻臚館跡整備基本構想」を策定（H27.3） ・高等裁判所敷地及び舞鶴中学校跡地を都市計画公園区域に追加（H26.9, 42.4ha→46.9ha） ・天守台や御高屋敷において、回遊性向上を図るための環境整備を実施。 <ul style="list-style-type: none"> *天守台：鋼製階段改修，手摺り付木製階段設置 *御高屋敷：園路改修，石碑周辺整備，外周フェンス撤去等 ・本丸・二ノ丸において、樹木整理による見所づくり（石垣や櫓の顕在化等）を実施。 ・福岡城さくらまつりを開催（H27.3～4，過去最高の約30万人が来場） ・舞鶴中学校跡地の校舎を活用したガイダンス・休憩施設「三の丸スクエア」をオープン（H26.11） ・福岡城整備を市民と一体となって推進するための「福岡城整備基金」を創設（H26.7） <ul style="list-style-type: none"> *H27.3現在：寄付件数289件，寄付金額8,225,019円 				
	指標内容	26年度目標	26年度実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	セントラルパーク構想の策定（%）	100.0	100.0	100%	A
成果の指標	過去3年間に福岡城跡（舞鶴公園）に行ったことがある市民の割合（%）	52.2	55.8	107%	
事業の進捗状況に関する補足	—				

施策評価シート

目標5	磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている		
施策5-3	情報アクセスや回遊性など、来街者にやさしいおもてなし環境づくり		
施策の方向性	おもてなしの心を醸成するための市民参加事業や啓発事業、観光ボランティアの充実などにより、市民一人ひとりが誇りと自覚をもてる観光都市福岡づくりを進めます。また、交通便利性の向上やユニバーサルデザインの普及などにより、快適にまちめぐりができ、外国人を含め多くの人が何度でも行ってみたいと感じる環境づくりをめざします。		
施策主管局	経済観光文化局	関連局	市長室、住宅都市局、道路下水道局

《施策事業の体系》 ★：新規事業、◆：区事業 / 太字：重点事業、その他：主要事業

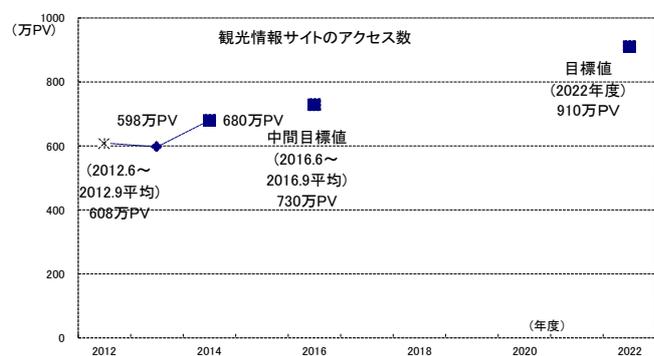
(施策5-3)情報アクセスや回遊性など、来街者にやさしいおもてなし環境づくり

- おもてなしの向上
 - まち歩き観光ガイド・史跡めぐりの充実強化
 - ★観光客にやさしいまちづくり事業
 - 都心のまちづくりの推進(都心のエリアマネジメントの推進) <再掲4-6>
 - 外国人向け観光情報サイトの機能強化
 - 公衆無線LAN環境整備
 - ◆おもてなしの人材活用事業<再掲:博多区>
- 交通便利性や都心回遊性の向上
 - ★快適で高質な都心回遊空間の創出事業(にぎわい創出空間検討等)
 - 来訪者をもてなす道づくり(都市サインの整備、道路緑化等)
 - ★都心部観光バス対策事業<再掲8-1>
 - ◆都心部まちめぐり推進事業<再掲:中央区>

1 指標

《成果指標》

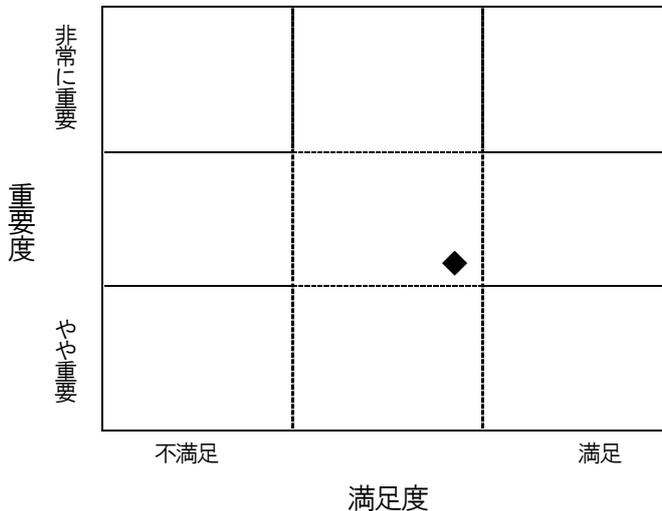
	初期値		現状値	中間目標値 (2016年度)	目標値 (2022年度)	達成状況
観光案内ボランティアの案内人数	6,940人 (2011年度)	8,823人 (2012年度)	10,778人 (2014年度)	11,000人	15,000人	A
観光情報サイトのアクセス数(観光情報サイト「よかなび」の月間PV(ページビュー))	608万PV (2012年6月~9月平均)		680万PV (2014年6月~9月平均)	730万PV (2016年6月~9月平均)	910万PV	A



≪市民満足度調査（2013年度調査）≫

満足度		重要度	
満足	27.1%	重要	51.1%
不満足	11.5%	非重要	7.0%
どちらでもない	58.5%	どちらでもない	37.8%

満足度と重要度の分布（平均評定値）【9区分評価】



2 現状分析

(1) 成果指標等の分析

- ・観光案内ボランティアの案内人数は、昨年度に続く大河ドラマ「軍師官兵衛」の影響により、黒田家ゆかりの地へのまち歩きのニーズが高いことから、昨年度には及ばないものの、順調に推移している。
- ・観光情報サイトのアクセス数（6月～9月の平均月間PV数）については、PCサイト及びスマホサイトへの外国語によるアクセス数が飛躍的に増加したことにより、598万PV→680万PVと前年比約14%増となり、順調に推移している。

(2) 主な事業の成果

●おもてなしの向上

- ・大河ドラマを契機とした黒田家ゆかりの地へのまち歩きを実施（475名参加）。
- ・外国人おもてなしセミナー（40名参加）を開催。

●交通利便性や都心回遊性の向上

- ・国道202号春吉橋架け替え事業に合わせ、国が整備する迂回路橋にぎわい創出空間として活用することを検討。
- ・歴史に配慮した道づくりとして承天寺・住吉神社周辺の道路整備、来訪者に分かりやすく道案内をするための都市サインの整備を実施。
- ・福岡市総合交通戦略協議会において、観光バス関連施設の整備に関する実施施策を含む、福岡市総合交通戦略を策定。

(3) 施策推進上の課題

- ・社会経済情勢の変化等（新たな制度創設や法改正など国や県の動向・状況変化等）
- ・施策、事業を進めていく上での主な課題

●おもてなしの向上

- ・外国人旅行者の主な不安要因は円滑な意思疎通ができないことであり、観光関連施設（案内所・宿泊施設・交通機関・飲食店等）での受入環境の向上が必要。特に東京オリンピック・パラリンピックの開催に向け国を挙げてインバウンド振興に取り組んでおり、今後も増加が予想される外国人旅行者に対する受入環境の整備が必要。
- ・観光情報サイトについては、スマートホンやタブレット等が急速に普及にしているため、PCのみでなく様々な端末からの閲覧に対応できるサイトの構築が必要。また、写真等を効果的に活用し閲覧者への訴求力を高めるとともに、掲載コンテンツや導線設計について、より魅力的で利用しやすいサイト構築が必要。
- ・観光案内ボランティアへの需要の増加や、外国語での案内希望に対する対応が不十分。

●交通利便性や都心回遊性の向上

- ・都心部の回遊性向上に向けた事業の実施にあたっては、地下鉄七隈線の延伸や民間ビルの更新などの開発機運を捉え、戦略的な推進が必要。
- ・都心部では、施設案内や道路標示など様々なサインの統一感がなく、デザインの統一や多言語表記が必要。
- ・天神中心部の恒久的な観光バス乗降場の候補地については、適地の確保が困難。

3 施策の評価（1・2を踏まえた施策の進捗状況）

順調

- ・成果指標はいずれも増加している。
- ・外国人旅行者の受入環境向上に向けた観光業従業者対象のセミナー実施や都市サインの整備など、事業は概ね順調に進んでいる。

4 今後の取組みの方向性

●おもてなしの向上

- ・飲食施設、交通機関、宿泊施設等における観光業従事者を対象に実施するセミナーや語学研修等について、観光業従事者からの意見を取り入れるなど、現場に即した効果的な内容にすることで、外国人旅行者の受入態勢を強化。
- ・観光案内ボランティアガイドの育成、多言語対応の充実・強化方法の検討。
- ・観光情報サイトについては、写真等を効果的に活用しプロモーション力の向上を図るとともに、掲載コンテンツやページ構成の整理を行うことで、利用者の利便性を向上させWEBによる受入環境を充実。
- ・福岡歴史なびについては設定している未公開ルート（8ルート）を順次公開。

●交通利便性や都心回遊性の向上

- ・事業の着実な推進と市費の負担軽減のため、国の補助制度の活用など、必要な予算を確保。
- ・天神地区における恒久的な乗降場の確保に向けて、活用可能性のある場所について検討を継続。

事業一覧

分野別目標	5 磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている				
施策	5-3 情報アクセスや回遊性など、来街者にやさしいおもてなし環境づくり				
まち歩き観光ガイド・史跡めぐりの充実強化①（観光案内ボランティアの充実強化）		所管課	経済観光文化局観光コンベンション部観光産業課	26年度事業費	9,921 千円
				27年度事業費	7,650 千円
対象	福岡市民・福岡を訪れる観光客	目的	福岡市を訪れる多くの訪問客に、ガイドの巧みな話術とおもてなしで、快適にまちをめぐり、魅力に触れて満足していただくことで、福岡市のファンを増やす。		
前年度実施内容	<ul style="list-style-type: none"> 本市で開催される大会・学会や祭り等の参加者に対する案内 派遣依頼に伴う観光案内活動 市役所ロビーに2名、町家ふるさと館前に1名を12/28～1/3を除く毎日常駐。観光案内、定時ツアーを行った。 福岡城むかし探訪館にて週4日（月水金日）常駐。 				
	指標内容	26年度目標	26年度実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	観光案内ボランティアの案内人数	9,190	10,778	117%	A
成果の指標	—	—	—	—	
事業の進捗状況に関する補足	—				
まち歩き観光ガイド・史跡めぐりの充実強化②（歴史・文化遺産まち歩き）		所管課	経済観光文化局文化財部文化財保護課	26年度事業費	2,150 千円
				27年度事業費	1,150 千円
対象	これまで文化財に関心の薄かった市民。市外からの観光客	目的	文化財の存在を知ってもらい、保護意識を高めてもらうきっかけとする。 福岡の歴史と文化財を他の観光資源と結びつけて、より幅の広い観光をしてもらう。		
前年度実施内容	<ul style="list-style-type: none"> 24nに制作したスマートフォンアプリに、まち歩きルート、2ルート分を追加した。 ①12月25日、「唐津街道と宿場町」姪浜ルートを追加公開。 ②3月20日、「唐津街道と宿場町」箱崎ルートを追加公開。 現在計5ルートを公開運用中。 その他、iOS8, iPhone6 plusへの対応 				
	指標内容	26年度目標	26年度実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	製作するガイダンスシステムのコース数(単位ルート)	2	2	100%	B
成果の指標	システムのダウンロード数（運用開始は25年度から）	30,000	22,294	74%	
事業の進捗状況に関する補足	—				
観光客にやさしいまちづくり事業①		所管課	経済観光文化局観光コンベンション部観光産業課	26年度事業費	1,500 千円
				27年度事業費	1,350 千円
対象	外国人旅行者と接する機会が多い観光従事者等	目的	外国人旅行者に対し、語学や文化などの面でストレスなくサービスを提供できている状態		
前年度実施内容	観光従事者を対象としたワークショップ形式のセミナー（外国人接客力向上セミナー）を開催。 <ul style="list-style-type: none"> ●内容 <ul style="list-style-type: none"> ・インバウンド市場動向について ・非言語コミュニケーションを活用したおもてなし方法について ●講師 <ul style="list-style-type: none"> 七條 芙美氏（HAPPY RERAILION リレーション・クリエイター） ●参加者 <ul style="list-style-type: none"> 40名 ※平成26年度はセミナー参加者が主体的に考え学ぶことで各参加者が所属する組織内でも同様の取組みが広がるよう参加者数を絞り込んだワークショップ形式で実施した。				
	指標内容	26年度目標	26年度実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	研修受講者数	100	40	40%	D
成果の指標	外国人入国者数	—	1,200,516	—	
事業の進捗状況に関する補足	—				
観光客にやさしいまちづくり事業②		所管課	経済観光文化局観光コンベンション部7モーション推進課	26年度事業費	1,350 千円
				27年度事業費	1,080 千円
対象	国内外の旅行者	目的	福岡市内の回遊性の高さにより、滞在時に高い満足度を得られている状態をつくる。		
前年度実施内容	<ul style="list-style-type: none"> 外国人向けの市内交通機関共通フリーパスである「福岡ツーリストシティパス」について、イベントパンフレットへの広告掲載を実施した。 本事業以外で実施する情報発信や観光展等への出展時に、福岡オーブントップバス及び福岡ツーリストシティパスに関しての広報を行うなど、市内の回遊手段に関する情報発信を実施した。 				
	指標内容	26年度目標	26年度実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	広報事業の実施回数	2	1	50%	B
成果の指標	入込観光客数	—	—	—	
事業の進捗状況に関する補足	—				

快適で高質な都心回遊空間の創出事業		所管課	経済観光文化局観光コンベンション部観光産業課	26年度事業費	0	千円
				27年度事業費	0	千円
対象	観光客	目的	博多部エリアの一体的な魅力向上と観光客の博多部エリアへの誘導機能の強化			
前年度実施内容	博多部への集客拡大，周辺への回遊促進に向けた方策の検討のための調査実施及び都心回遊強化推進会議「御供所・冷泉プロジェクト」への調査結果報告について，平成25年度実施・完了					
	指標内容	26年度目標	26年度実績	達成率	事業の進捗状況	
活動の指標	—	—	—	—	A	
成果の指標	—	—	—	—		
事業の進捗状況に関する補足	「都心回遊強化推進会議」のプロジェクトとして，所管課と協議しながら各種調査を実施し，調査結果を共有。					
快適で高質な都心回遊空間の創出事業		所管課	住宅都市局都市づくり推進部都心再生課	26年度事業費	4,000	千円
				27年度事業費	179,000	千円
対象	都心部において働く人，住む人，訪れる人など，あらゆる人	目的	・回遊性強化により，都心部の拠点同士の相乗効果が発揮され，都心部全体の集客力・活力が向上する。 ・歩いて楽しく，魅力ある回遊空間の形成により，働く人，住む人，訪れる人の心に残る美しいまちとなる。			
前年度実施内容	○都心回遊性の向上に関する取組みは、水辺や花・みどり、歴史・観光など多岐にわたる施策との整合、財産負担の平準化を図る事が必要であることから、庁内横断的な検討組織を設置し、事業間の調整・情報共有などを通じて事業の優先順位の整理や関係課と連携した事業計画の立案・予算化など、事業の全体最適化を推進 (事業の優先順位の整理や、関係課と連携した事業計画の立案・予算化)					
	指標内容	26年度目標	26年度実績	達成率	事業の進捗状況	
活動の指標	エリマネ組織等と当該とのまちづくり検討に係る協議回数	50	77	154%	A	
	エリマネ組織等による公開空地等でのイベント開催件数	8	9	113%		
成果の指標	都心部の1日あたりの歩行者交通量(天神地区，博多駅地区の調査地点のうち12地点の合計(平日7時～20時))(万人)	10.7	—	—		
事業の進捗状況に関する補足	—					
快適で高質な都心回遊空間の創出事業		所管課	道路下水道局計画部道路計画課	26年度事業費	19,700	千円
				27年度事業費	398,400	千円
対象	都心部の道路空間，及び国内外からの来訪者	目的	国際競争力の高い都心部となることで，多くの国内外からの来訪者が交流し，福岡都市圏及び九州の活力を牽引している。			
前年度実施内容	○賑わい創出空間の検討<春吉橋周辺> ○博多駅前通り設計検討					
	指標内容	26年度目標	26年度実績	達成率	事業の進捗状況	
活動の指標	—	—	—	—	A	
成果の指標	都心部を回遊する歩行者交通量(人)	34,000	34,479	101%		
事業の進捗状況に関する補足						

施策評価シート

目標5	磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている		
施策5-4	交流がビジネスを生むMICE拠点の形成		
施策の方向性	<p>福岡都市圏内の大学、会議場、ホテルなどと連携しながら、会議、展示、飲食、宿泊などのMICEを支える多様な要素が一体として機能するよう、MICEの拠点機能を高めます。</p> <p>また、ウォーターフロントに集積するコンベンション機能を強化するため、新たな展示場の整備や天神・博多駅との回遊性向上を進めます。</p> <p>さらに、助成金やおもてなし事業による開催支援や地元企業とのマッチング支援などにより、リピーターの確保や新たなビジネスの創出など、地元経済への波及効果を高めます。</p>		
施策主管局	経済観光文化局	関連局	総務企画局, 住宅都市局, 港湾局

《施策事業の体系》 ★：新規事業, ◆：区事業 / 太字：重点事業, その他：主要事業

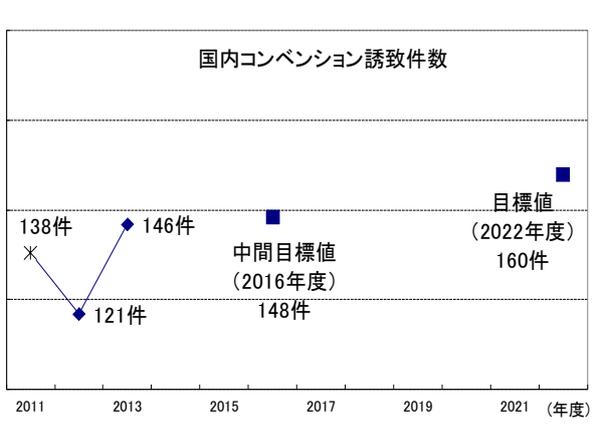
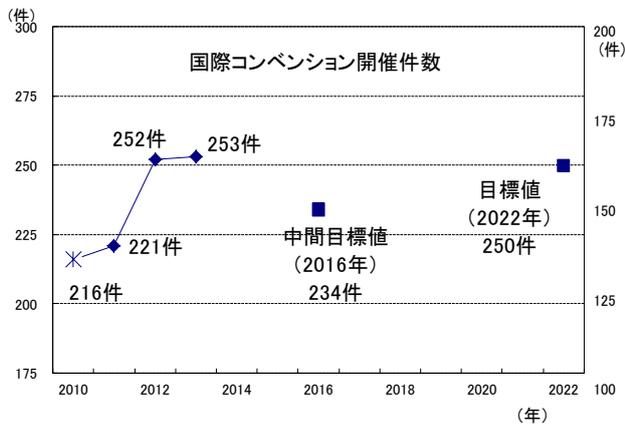
(施策5-4) 交流がビジネスを生むMICE拠点の形成

- MICE機能の強化
 - コンベンション機能強化の検討
 - 都心部とウォーターフロントとの交通アクセス強化の検討<再掲4-5>
 - 産学官民連携による国際競争力強化事業<再掲6-1>
 - 中央ふ頭整備事業(にぎわいづくり、回遊性向上、景観整備等)<再掲8-1>
- MICE誘致の推進
 - MICE誘致推進事業
 - MICE開催支援事業

1 指標

《成果指標》

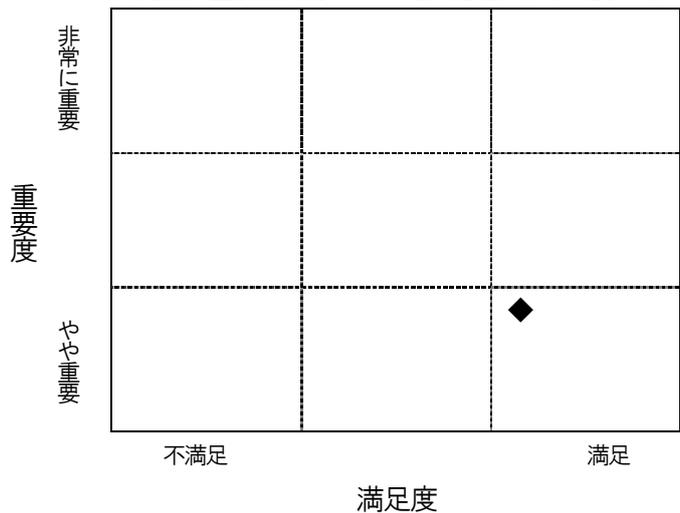
	初期値	現状値	中間目標値 (2016年度)	目標値 (2022年度)	達成状況
国際コンベンション開催件数	216件 (2010年)	253件 (2013年)	234件	250件	A
国内コンベンション誘致件数	138件 (2011年度)	146件 (2013年度)	148件	160件	A



《市民満足度調査（2013年度調査）》

満足度		重要度	
満足	25.1%	重要	42.3%
不満足	8.9%	非重要	10.4%
どちらでもない	62.6%	どちらでもない	42.8%

満足度と重要度の分布（平均評定値）【9区分評価】



2 現状分析

(1) 成果指標等の分析

- ・本市の年間国際会議開催件数は253件(H25)で、目標値を上回っている。(件数は5年連続で国内第2位)
- ・国内会議の誘致件数は146件(H25n)となっており、前年度より増加している。

(2) 主な事業の成果

●MICE 機能の強化

- ・MICE関連施設や関連するインフラ整備などについて、施設概要や整備の考え方などの市の基本的な考え方を示す「MICE関連施設整備方針」を策定。
- ・第2期展示場については、民間ノウハウの活用、財政負担の軽減及び平準化を図るなどの観点から整備・維持管理の事業手法としてPFI（BT0）方式による事業化の方向性で進める。
- ・ウォーターフロント地区におけるより具体的な施設計画や実現性の高い事業手法等について、民間事業者からアイデアを求めるため、H27.3から計画提案公募を開始。
- ・都心部とウォーターフロントとの交通アクセス強化については、市民や来訪者へのわかりやすさ、定時性の確保や速達性の向上、交通需要への柔軟な対応などの視点で、都心3拠点間を結ぶバスによる公共交通幹線軸の形成にかかる検討を実施。
- ・博多港国際ターミナルにおける外国人旅行者に対する公共交通案内の強化として、バスの乗り方や料金、天神や博多駅までの所要時間などの表示サイズを拡大して掲出。

●MICE 誘致の推進

- ・MICE主催者へのコンベンション開催助成金の交付（27件）、主催者や参加者のニーズを踏まえた開催支援を実施、国際会議協会（ICCA）のデータベースを活用したリサーチ・マーケティング、IMEXなど海外の国際会議等の商談会・見本市に出展。
- ・H25.6に国の「グローバルMICE戦略都市」への選定（全国5都市の一つ）を受け、観光庁とともに海外アドバイザーによるコンサルティングや海外広告事業などを実施。
- ・H26.4に（公財）福岡観光コンベンションビューロー内にMICEの専門組織「Meeting Place Fukuoka」を設置し、産学官民が連携して、ワンストップ体制でMICEの誘致や受入支援を実施する体制を構築。
- ・国家戦略特区の規制緩和を活用し、公道を活用したイベント（ストリートパーティ）を実施し、その中でMICE参加者の懇親会を開催するなど、福岡でのMICE開催の魅力向上のためにユニークメニューの開発・充実を行った。
- ・Food EXPO Kyushu開催に合わせ、MICE参加者と地元企業をつなぐビジネスコーディネートとして、出展者・バイヤーの交流会（参加者数169人）や、新たなビジネス機会やイノベーションを創出するために、地場企業・生産地見学ツアー（参加者数：海外バイヤー18社34人）を実施。

(3) 施策推進上の課題	
<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会経済情勢の変化等（新たな制度創設や法改正など国や県の動向・状況変化等） ・ 施策, 事業を進めていく上での主な課題 	
<p>●MICE 機能の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ウォーターフロント地区内の「オール・イン・ワン」の実現に向けて、宿泊や賑わいの強化が必要であり、ホテル・賑わい施設等の民間施設の誘致に向けて、魅力的で実現性の高い計画づくりが必要。 ・ ウォーターフロントエリアにおいて、ホテル・賑わい施設等の民間施設の誘致に向けて、魅力的で実現性の高い計画づくりが必要。 ・ ウォーターフロント地区再整備の方向性や、MICE 関連施設整備方針と整合した交通アクセス強化の検討が必要。 ・ 各種施策実施にあたっては、適宜市民へ情報発信（広報・PR）していくことが必要。 <p>●MICE 誘致の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「Meeting Place Fukuoka」のさらなる営業活動の強化やMICE 開催のキーパーソンとのネットワークづくりが必要。 ・ 新たなユニークベニューの開発やMICE を通じたビジネスコーディネートの充実、近隣自治体や民間と連携した受入環境整備などの取り組みが必要。 	
3 施策の評価（1・2を踏まえた施策の進捗状況）	順調
<ul style="list-style-type: none"> ・ 国際コンベンション・国内コンベンションに関する成果指標は、ともに増加している。 ・ 「Meeting Place Fukuoka」によるMICE ワンストップ体制の構築や国家戦略特区道路占用事業の活用等により、事業は順調に進んでいる。 	
4 今後の取組みの方向性	
<p>●MICE 機能の強化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第2期展示場については、詳細な施設計画及び、H28nの事業者公募に向けた公募条件等を検討。 ・ ホテルや賑わい施設等の民間施設の誘致にあたっては、計画提案公募の提案や対話を踏まえて、事業手法等について検討。 ・ ウォーターフロント地区内の回遊性や交通の円滑化を図るため、歩行者デッキの整備や効果的な交通処理方策を検討。 ・ 都心部とウォーターフロントとの交通アクセス強化では、各種関連計画との整合を図りながら、都心3拠点間を結ぶ「新たな交通システム」である都心循環BRTの導入に向け、関係者（交通管理者、道路管理者、交通事業者、その他関係部署）と継続して協議・連携していく。 <p>●MICE 誘致の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 海外への展示会の出展やMICE 開催のキーパーソンへの営業活動を増やし、海外約150か国へ向けたPRビデオの作成・放送を行うなど、「Meeting Place Fukuoka」の営業を強化するとともに、MICE の誘致を担うMICE アンバサダーの任命や、MICE の開催決定権を握るキーパーソンを招聘するなどして、新規案件を発掘・誘致。 ・ 福岡市独自のユニークベニューの開発、MICE を通じたビジネスマッチングを行うこと等により、福岡でのMICE 開催の魅力を高め、国内外へ発信することにより再来訪や新たな誘致を獲得。 ・ H28に開催されるライオンズクラブ国際大会に向け、メイン会場の1つであるマリンメッセ福岡のWi-Fi整備を行うほか、「Meeting Place Fukuoka」を中心に関係機関と協力して、受入環境の整備を実施。 ・ 国家戦略特区における規制改革事項である「エリアマネジメントの民間開放」「古民家等の歴史的建築物活用のための適用除外」を活用し、公道や古民家等を活用したMICE 開催を行うことにより、MICE の誘致・開催促進を図る。 	

事業一覧

分野別目標	5 磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている
施策	5-4 交流がビジネスを生むMICE拠点の形成

コンベンション機能強化の検討		所管課	経済観光文化局観光コンベンション部MICE施設整備担当	26年度事業費	63,348 千円	27年度事業費	109,757 千円
対象	本市コンベンションゾーンにおけるコンベンション施設	目的	コンベンション施設が集積するウォーターフロントのコンベンションゾーンにおいて、新たな展示場を整備するとともに、ホテルの誘致(宿泊機能やバンケット機能)、飲食店などの賑わい創出により、コンベンション機能を強化する。				
前年度実施内容	MICE機能強化を図るため、第2期展示場等のMICE関連施設の整備やホテル・賑わい施設の誘致に向けて、施設概要や官民の役割分担等、市の基本的な考え方を示した「福岡市MICE関連施設整備方針」を策定した。						
	指標内容	26年度目標	26年度実績	達成率	事業の進捗状況		
活動の指標	—	—	—	—	B		
成果の指標	—	—	—	—			
事業の進捗状況に関する補足	ウォーターフロント地区の再整備に向けて、計画提案公募を実施中であり、提案者と対話を行いながら、具体的な施設配置や詳細な計画内容を検討していく。						
MICE誘致推進事業(MICE開催支援等推進事業)		所管課	経済観光文化局観光コンベンション部MICE推進課	26年度事業費	138,493 千円	27年度事業費	131,326 千円
対象	MICE主催者	目的	積極的な誘致活動を行うとともに、MICE開催支援を通じて福岡でのMICE開催の魅力を高め、国内外へ発信することにより再来訪や新たな誘致につなげる。				
前年度実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・海外の国際会議等の展示会・見本市への出展。 ・国際会議協会(ICC)のデータベースを活用した戦略的なマーケティング活動。 ・市と(公財)福岡観光コンベンションビューロー、(一財)福岡コンベンションセンターの3者による「MICE誘致促進会議」等で共働の誘致活動を実施。 ・MICE主催者への各種開催支援(コンベンション開催助成、歓迎バナーの掲出、コンベンションボランティアなど)。 ・MICEの専門組織「Meeting Place Fukuoka」の設置・運営を行った。 ・MICE参加者と地元生産者等をつなぐビジネスコーディネートを実施(Food EXPO Kyushu開催にあわせた交流会やサイトビジットの実施など) ・ユニークベニューの開発(国家戦略道路占用事業を活用した公道でのMICE懇親会の実施など) ・国から選定を受けた「グローバルMICE戦略都市」として、観光庁と共同で国際競争力強化に向けた専門家コンサルティングやプロモーションを実施。 						
	指標内容	26年度目標	26年度実績	達成率	事業の進捗状況		
活動の指標	国際・国内会議誘致提案案件の増加	—	集計中	—	B		
成果の指標	国際会議開催件数・国内会議誘致件数	404	集計中	—			
事業の進捗状況に関する補足	26年度実績については集計中のため、成果指標に基づく評価は不能。 MICE誘致件数増加につなげるため、上記の取り組みを通して、MICE誘致推進の強化を図った。						

施策評価シート

目標5	磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている		
施策5-5	国際スポーツ大会の誘致やプロスポーツの振興		
施策の方向性	国際スポーツ大会や全国レベルの大会の開催地、合宿地としての誘致・支援を行うとともに、地元プロスポーツの振興を図ることなどにより、市民が一流のスポーツに触れ、交流できる機会を提供し、市民スポーツの振興を推進します。		
施策主管局	市民局	関連局	経済観光文化局

《施策事業の体系》 ★：新規事業、◆：区事業 / 太字：重点事業、その他：主要事業

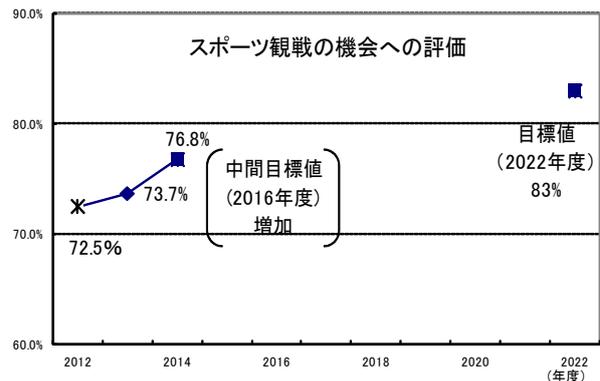
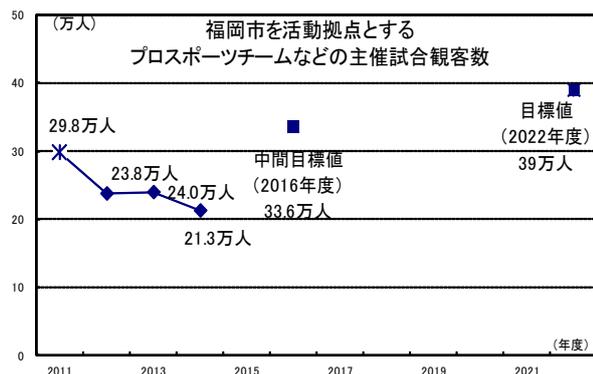
(施策5-5) 国際スポーツ大会の誘致やプロスポーツの振興

- 国際スポーツ大会等の開催地・合宿地としての誘致・支援
 - 国際スポーツ大会等の誘致・開催
【大規模スポーツ大会誘致・開催支援、スポーツコミッション事業】
 - 拠点体育館整備<再掲1-5>
- プロスポーツの振興
 - アビスパ福岡活用・支援
 - 大相撲九州場所支援事業

1 指標

《成果指標》

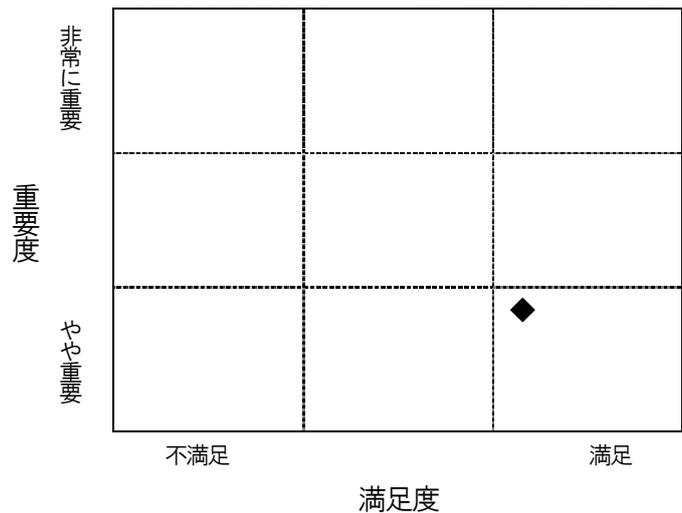
	初期値	現状値	中間目標値 (2016年度)	目標値 (2022年度)	達成状況
福岡市を活動拠点とするプロスポーツチームなどの主催試合観客数(福岡ソフトバンクホークスを除く)	29万8千人 (2011年度)	21万3千人 (2014年度)	33万6千人	39万人	C
スポーツ観戦の機会への評価(福岡市はスポーツ観戦の機会に恵まれた都市だと思う市民の割合)	72.5% (2012年度)	76.8% (2014年度)	増加	83%	A



《市民満足度調査（2013年度調査）》

満足度		重要度	
満足	27.3%	重要	42.2%
不満足	10.6%	非重要	10.6%
どちらでもない	58.9%	どちらでもない	42.8%

満足度と重要度の分布（平均評定値）【9区分評価】



2 現状分析

(1) 成果指標等の分析

- ・スポーツ観戦の機会の評価は、順調に伸びている。
- ・主催試合観客数については、大相撲九州場所が増加したが、アビスパ福岡の成績低迷やライジング福岡及び福岡J・アンクラスの市内開催試合が少なくなったため、観客数が減少した。

(2) 主な事業の成果

●国際スポーツ大会等の開催地・合宿地としての誘致・支援

- ・H27.8に中国北京で行われる世界陸上選手権大会の事前合宿地として、イギリス陸上競技連盟視察の受入と協議を行い、事前合宿地として決定。(H26.10)
- ・H32の東京オリンピック・パラリンピックの事前合宿地として、スウェーデンオリンピック委員会の視察受入と福岡市・福岡県の三者で基本合意書の調印式を実施。事前合宿地として全国で最も早い決定。(H26.4視察, H26.10調印式)
- ・H31に日本で行われるラグビーワールドカップ2019の開催都市の1つとして選定。(H27.3)

●プロスポーツの振興

- ・アビスパ福岡と協力して、子どもから高齢者までを対象としたサッカー教室等を実施。また、アビスパ福岡の支援のため、市民を対象とした試合観戦招待やホームゲーム開催時におけるスポーツ大会等の広告看板を掲出。
- ・大相撲九州場所の支援として、街路灯バナーの掲出、CM映像放映等のPRを実施。

(3) 施策推進上の課題

- ・社会経済情勢の変化等（新たな制度創設や法改正など国や県の動向・状況変化等）
- ・施策、事業を進めていく上での主な課題

●国際スポーツ大会等の開催地・合宿地としての誘致・支援

- ・新規国際スポーツ大会等の開催や事前合宿地についての情報収集が不十分。
- ・福岡市では、国際的、全国的規模の各種スポーツ大会を毎年開催。市民に夢や希望を与え、青少年の健全育成や市民スポーツの振興に寄与するため、市民がトップレベルの競技に触れる機会の提供が必要。
- ・九電記念体育館の土地の使用期限がH31n末までであり、後継施設の整備が急務。
- ・体育館や屋外の競技場などの施設について、老朽化や、大規模な国際スポーツ大会の開催基準に満たないものがあることが課題。

●プロスポーツの振興

- ・福岡ソフトバンクホークス、アビスパ福岡に加え、福岡J・アンクラス、ライジング福岡など多彩なプロスポーツチーム等が活動しているほか、大相撲九州場所の開催など、福岡市のスポーツ観戦環境は恵まれているが、歴史が浅く知名度が低いチーム等はその活動の周知が不十分。(ホークスを除くプロスポーツ試合観客数 H26n : 229, 204 人)
- ・アビスパ福岡については、経営状況が改善されつつあるが、不安定な状態である。

3 施策の評価（1・2を踏まえた施策の進捗状況）

概ね順調

- ・スポーツ観戦の機会に関する成果指標は増加しているが、プロスポーツ観客数に関する成果指標は減少している。
- ・福岡市が、H27.8に中国北京で行われる世界陸上選手権大会の事前合宿地やラグビーワールドカップ2019の試合開催地、2020年の東京オリンピック・パラリンピックの事前合宿地となるなど、事業は概ね順調に進んでいる。

4 今後の取組みの方向性

●国際スポーツ大会等の開催地・合宿地としての誘致・支援

- ・ラグビーワールドカップ2019については、福岡県や経済界などと連携し、大会開催に向けた準備を実施。キャンプ地については、情報収集に努めるとともに、様々な機会を通じて福岡市をPRしていく。
- ・H27世界陸上競技選手権大会におけるイギリス陸上競技連盟の事前合宿地として受入・支援。
- ・新規の国際スポーツ大会や全国レベルのスポーツ大会の開催について、各種競技団体やパートナー都市協定を締結したJOCと連携して誘致を検討。
- ・東京オリンピック・パラリンピックについて、事前トレーニング候補地ガイドへの掲載を検討。
- ・市民が身近に高いレベルのスポーツに触れ、交流できる機会を創出するため、大規模スポーツ大会の開催誘致を推進。
- ・新たな拠点体育館の整備について、九電記念体育館の閉館に間に合うよう着実に整備を推進。

●プロスポーツの振興

- ・各プロスポーツへの関心向上と観客数増加のため、継続した広報活動や市民とのスポーツ交流活動を支援。
- ・アビスパ福岡については、経営状況を把握しながら、継続して支援。

事業一覧

分野別目標	5 磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている
施策	5-5 国際スポーツ大会の誘致やプロスポーツの振興

国際スポーツ大会等の誘致・開催③（スポーツコミッション事業）		所管課	市民局スポーツ推進部スポーツ事業課	26年度事業費	1,086 千円
				27年度事業費	1,097 千円
対象	国内外のスポーツ関係団体等 市民	目的	国際スポーツ大会等開催地、事前合宿地の誘致・支援を行うことにより、市民が一流のスポーツに触れ、交流できる機会が増えるなど、市民スポーツの振興が推進されるとともに、本市の知名度向上や参加者・観光客増加による経済波及効果ももたらされる。		
前年度実施内容	<p>①イギリス陸上競技連盟視察受入と協議 平成27年に世界陸上競技選手権大会が北京で開催されるにあたり、事前合宿地として本市内陸上競技場等を視察と協議。 ・視察日：平成26年10月14・15日 視察者：3名</p> <p>②スウェーデンオリンピック委員会視察受入及び合意 2020年の東京オリンピックが開催されるにあたり、事前合宿地として本市競技施設等の視察。その後、福岡市・福岡県の三者で基本合意書の調印式を行った。 ・視察日：平成26年4月11・12日 視察者：2名 ・調印式：平成26年10月8日（水） 場所：アクロス福岡</p>				
	指標内容	26年度目標	26年度実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	—	—	—	—	A
成果の指標	スポーツ観戦の機会への評価（%）	73.7	76.8	104%	
事業の進捗状況に関する補足	—				
国際スポーツ大会等の誘致・開催④（ラグビーワールドカップ2019開催地及びキャンプ地誘致調査・検討）		所管課	市民局スポーツ推進部スポーツ事業課	26年度事業費	8,213 千円
				27年度事業費	2,569 千円
対象	ラグビーワールドカップ2019	目的	ラグビーワールドカップ2019の開催地誘致を行う場合の福岡市の費用負担等を明らかにし、開催地誘致またはキャンプ地誘致を判断する。		
前年度実施内容	<p>○「ラグビーワールドカップ2019」開催にかかる必要経費を積算し、開催都市に立候補を行った。 また、立候補後は、公式視察の受け入れを行い、平成27年3月2日開催都市に選定された。</p> <p>○キャンプ地については、情報収集やパイプ作りに努めるとともに、様々な機会を通じて福岡市のPRを行った。</p>				
	指標内容	26年度目標	26年度実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	—	—	—	—	A
成果の指標	—	—	—	—	
事業の進捗状況に関する補足	—				
アビスパ福岡活用・支援		所管課	市民局スポーツ推進部スポーツ事業課	26年度事業費	85,572 千円
				27年度事業費	87,116 千円
対象	アビスパ福岡 市民	目的	・市民が、試合観戦やアビスパ福岡のホームタウン活動を通して、一流のスポーツに触れ、交流できる機会が増える。 ・多くの市民や企業、団体が、アビスパ福岡を誇りに思い、積極的に支援することで、アビスパ福岡の経営基盤が安定し、自立が図られる。		
前年度実施内容	<p>①観戦招待事業（小中高生とその保護者をホームゲームに招待） ②少年少女サッカー教室（幼児、小中学生の団体を対象としたコーチによるサッカー指導） ③親子サッカー教室（小学生とその保護者を対象とした選手・コーチによる教室） ④心の教育プロジェクト（市内小学校での選手・コーチによる特別授業） ⑤アビスパ健康教室（およそ60歳以上を対象とした運動啓発教室） ⑥スポーツ大会等広告看板掲出（ホームゲーム時に掲出） ⑦ブラインドサッカー教室（小学生以上を対象としたコーチおよびブラインドサッカー選手による体験教室）</p>				
	指標内容	26年度目標	26年度実績	達成率	事業の進捗状況
活動の指標	—	—	—	—	B
成果の指標	プロスポーツチームなどの主催試合観客数（千人）	240	213	89%	
事業の進捗状況に関する補足	—				

施策評価シート

目標5	磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている		
施策5-6	国内外への戦略的なプロモーションの推進		
施策の方向性	都市圏や九州の各都市、さらには釜山広域市と連携し、国内やアジアをはじめとする海外の有望市場に対し、メディア、インターネットなどを活用した効果的なプロモーションにより、クルーズ客を含め、国内外からの誘客に積極的に取り組み、多くの人をひきつけます。		
施策主管局	経済観光文化局	関連局	港湾局

《施策事業の体系》 ★：新規事業、◆：区事業 / 太字：重点事業、その他：主要事業

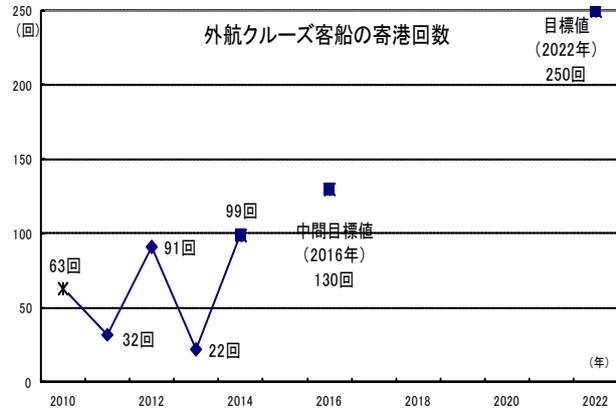
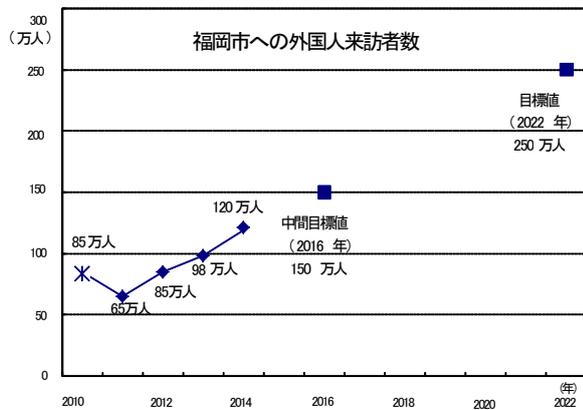
(施策5-6)国内外への戦略的なプロモーションの推進

- シティプロモーション、ブランドイメージアップの推進
 - 国内外観光プロモーション事業(欧州・アジア等)
 - フィルムコミッション事業<再掲7-3>
- クルーズ客拡大への取り組み
 - クルーズ客船誘致活動の推進・受入体制の充実強化
 - クルーズ客船に対するインセンティブ(港湾使用料の減免)
 - ★全国クルーズ活性化会議

1 指標

《成果指標》

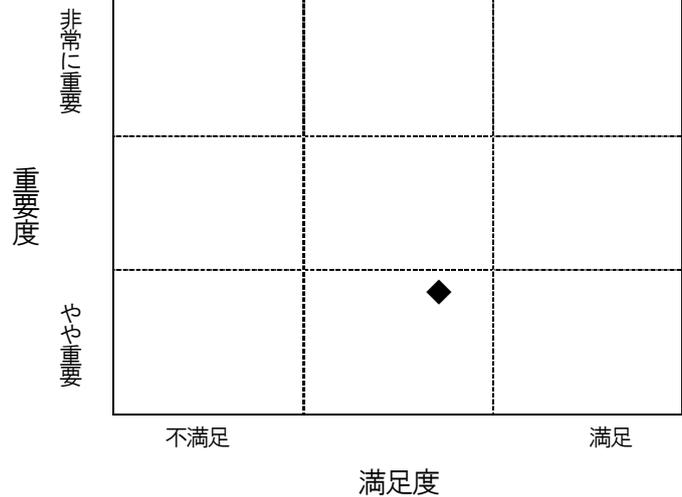
	初期値	現状値	中間目標値 (2016年度)	目標値 (2022年度)	達成状況
福岡市への外国人 来訪者数	85万人 (2010年)	120万人 (2014年)	150万人	250万人	A
外航クルーズ客船 の寄港回数	63回 (2010年)	99回 (2014年)	130回	250回	A



《市民満足度調査（2013 年度調査）》

満足度		重要度	
満足	22.1%	重要	43.5%
不満足	14.1%	非重要	11.2%
どちらでもない	60.9%	どちらでもない	41.2%

満足度と重要度の分布（平均評定値）【9区分評価】



2 現状分析

(1) 成果指標等の分析

- ・円安の進行により、ほとんどの国・地域からの入国が増加しており、特に訪日意欲が回復した中国を筆頭に、韓国、香港、台湾、タイの増加数が大きいことが外国人来訪者数の増加につながっていると考えられる。
- ・H26 は外国クルーズ客船が 99 回寄港した。船の大型化に伴い、クルーズ客船がほとんどを占める不定期航路の乗降人員数は過去最高を記録していた H24 から倍増（約 42 万人）した。
- ・H27 はすでに 200 回を超える岸壁予約を受けているうえ、さらなる大型船の初入港が予定されているなど、アジアクルーズ市場の拡大による博多港へのニーズは、今後さらに高まっていく見込みである。

(2) 主な事業の成果

●シティプロモーション、ブランドイメージアップの推進

- ・国内では 3 大都市圏、海外では直行便の就航するアジアなどの有望市場を主なターゲットとして、国際観光展等への出展や観光説明会の開催など、本市の事業に加え観光関係協議会等において広域連携によるプロモーション活動を実施。（観光展・説明会等 25 件）
- ・福岡の認知度向上や旅行商品の造成促進を図るため、海外メディアによる情報発信（10 件）や旅行会社の招請（5 件）を実施。
- ・福岡フィルムコミッションについて、海外作品 14 件の撮影支援を行い、H27.1 にはアジアフォーカス・福岡国際映画祭との連携により撮影誘致したフィリピン映画の撮影が行なわれた。また、釜山などの国際映画祭に合わせて開催される見本市等において撮影誘致活動を実施。

●クルーズ客拡大への取り組み

- ・商店街など新たな資源を活用した寄港地ツアーの造成や受入サポートの実施など、旅行社及び商業施設と連携した取り組みが好評。
- ・クルーズランチ商談会（地元飲食店とクルーズ取扱い旅行社のマッチングを図る取組み）を開催（1 回、参加人数約 120 人）。
- ・国内外の船社・代理店訪問や海外コンベンションへの参加を通じた誘致活動や、見学会・セミナー、出前講座等を通じた博多港発着クルーズ振興を実施。H27.4 には、2,000 人規模の外国船による博多港発着クルーズの実施。
- ・クルーズ客の円滑な受入や利便性・快適性の向上とともに、アウトバウンド（博多港発着クルーズ）を含めたクルーズ振興を図るため、中央ふ頭において、クルーズセンターを整備（H27.5 供用開始）

(3) 施策推進上の課題	
<ul style="list-style-type: none"> ・社会経済情勢の変化等（新たな制度創設や法改正など国や県の動向・状況変化等） ・施策、事業を進めていく上での主な課題 	
<p>●シティプロモーション、ブランドイメージアップの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福岡市を訪れる国内からの観光客は、福岡県内、九州、中国地方が多数を占めており、国内人口の6割以上を占める3大都市圏（首都圏、中部圏、関西圏）からの観光客は全体の2割程度と少ない。 ・外国人観光客の6割を韓国、中国で占めているが、特定の地域に集中しているため、観光客の動向が国際情勢による影響を受けやすい。 ・観光地としての福岡市の知名度を向上させるため、伝統・文化、食、コンテンツ、ファッション、ショッピングなどの素材の中からターゲットの地域の嗜好にあわせてどんな内容・手法でプロモーションを行うかについて、継続的な市場分析・研究が必要。 	
<p>●クルーズ客拡大への取り組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・クルーズ客船寄港回数の急増（クルーズ船寄港回数 H25:38 回→H26:115 回、H27:250 回超予定）、船の大型化による港湾施設の不足 ・船の大型化（一度に来福するクルーズ客の増加）による、観光バス、市内受入施設の不足 	
3 施策の評価（1・2を踏まえた施策の進捗状況）	順調
<ul style="list-style-type: none"> ・成果指標はいずれも増加している。（過去最高を記録） ・プロモーションや誘致活動など事業は概ね順調に進んでいる。 	
4 今後の取組みの方向性	
<p>●シティプロモーション、ブランドイメージアップの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本政府観光局等、関係団体からの情報収集に加え、福岡観光コンベンションビューローや各種協議会とも連携して、ターゲットとなる市場のニーズを捉え、効果的なプロモーションを計画的に実施。 ・福岡フィルムコミッションにおいては、アジアフォーカス福岡国際映画祭を活用した撮影誘致活動やインターネットなどを活用した効果的なプロモーションを実施。 	
<p>●クルーズ客拡大への取組み</p> <ul style="list-style-type: none"> ・商店街など新たな資源を活用した寄港地ツアーの造成や受入サポートの実施など、旅行社及び商業施設と連携した取組みが好評を得ており、連携強化を図りながら取組みを継続するとともに、入国審査の迅速化に関する国との協議も継続。 ・拡大を続けるアジアクルーズへの需要に対応できるよう、岸壁の延伸などの港周辺環境の整備・強化を図るとともに、クルーズ観光客の受入環境の充実に向け、旅行社及び観光施設等との連携強化を図る。 ・より高級なラグジュアリークルーズやアジア以外の地域からのクルーズ、博多港発着クルーズなど、多様なクルーズの誘致推進。 	

事業一覧

分野別目標	5 磨かれた魅力に、さまざまな人がひきつけられている
施策	5-6 国内外への戦略的なプロモーションの推進

観光プロモーション事業（消費・投資・重点）		所管課	経済観光文化局観光コンベンション部プロモーション推進課	26年度事業費	59,092	千円
				27年度事業費	49,491	千円
対象	国内外の旅行者	目的	福岡に興味・関心を持ち、福岡を訪れる			
前年度実施内容	観光関係協議会における広域連携による取り組みに加え、主として、国内では3大都市圏、海外では直行便の就航するアジアの主要都市などに対し、市場の嗜好性に合わせたプロモーションを実施した。 ○観光関係協議会による活動 ○現地説明会開催や観光展出演等によるPR ○メディア等を活用した情報発信（メディアや旅行会社等の招請、テレビドラマ等のロケ地誘致など） ○アジアゲートウェイプロジェクト（釜山広域市との共同PR）					
	指標内容	26年度目標	26年度実績	達成率	事業の進捗状況	
活動の指標	説明会開催・観光展出演等の件数	—	25	—	A	
成果の指標	外国人入国者数	—	1,200,516	—		
事業の進捗状況に関する補足	—					
戦略的情報発信事業（重点）〈旧：国内外観光プロモーション事業〉		所管課	経済観光文化局観光コンベンション部プロモーション推進課	26年度事業費	6,900	千円
				27年度事業費	6,720	千円
対象	国内外の旅行者	目的	福岡に興味・関心を持ち、福岡を訪れる			
前年度実施内容	実行委員会及びコンベンションビューローへ負担金を拠出し広報物を制作・配布 ・福岡観光ポスターの印刷・配布 ・福岡観光ガイドブックの作成 （作成部数；日27万・英8万・韓4万・繁2万・簡4万）					
	指標内容	26年度目標	26年度実績	達成率	事業の進捗状況	
活動の指標	観光ガイドブックの発行部数	—	450,000	—	A	
成果の指標	外国人入国者数	—	1,200,516	—		
事業の進捗状況に関する補足	—					
欧州プロモーション事業		所管課	経済観光文化局観光コンベンション部プロモーション推進課	26年度事業費	8,063	千円
				27年度事業費	7,343	千円
対象	オランダをはじめとした欧州市場	目的	福岡の認知度が高まり、福岡に頻繁に訪れてもらう			
前年度実施内容	（市場分析） ・欧州市場におけるプロモーションの方向性について検討。 （情報発信） ・福岡市の認知度向上を図るため、欧州等で発行される雑誌を活用した情報発信を実施した。（2誌） ・フランスで開催される「Japan EXPO」に出展しPRを行った。					
	指標内容	26年度目標	26年度実績	達成率	事業の進捗状況	
活動の指標	プロモーション件数	3	3	100%	A	
成果の指標	外国人入国者数	—	1,200,516	—		
事業の進捗状況に関する補足	—					
クルーズ客船誘致活動の推進・受入体制の充実強化①		所管課	経済観光文化局観光コンベンション部プロモーション推進課	26年度事業費	26,806	千円
外国クルーズ客船受入事業（A）				27年度事業費	21,154	千円
対象	クルーズ客	目的	スムーズに観光やショッピングを楽しみ、クルーズ客の満足度が上がる			
前年度実施内容	（1）着岸場所（岸壁・博多港国際ターミナル）での対応 ①入国管理局、警察等との連絡調整 ②岸壁での歓迎・見送り演出の実施 ③ウエルカムゲート等での語学ボランティアによる観光案内の実施等 （2）受入体制等の充実 ①観光バスの天神地区乗り入れの受入協力 ②天神地区商業施設と連携した受入体制（外国語対応等）の充実強化等 ③クルーズランチ商談会の実施 ④旅行会社・商業施設と連携した寄港地観光ツアーの実施					
	指標内容	26年度目標	26年度実績	達成率	事業の進捗状況	
活動の指標	受入体制の整備	—	—	—	A	
成果の指標	外航クルーズ客船の寄港回数	110	99	—		
事業の進捗状況に関する補足	平成25年度に激減したクルーズ寄港数は平成26年度に大幅に回復し増加基調が続いている。					

クルーズ客船誘致活動の推進・受入体制の充実強化②		所管課	経済観光文化局観光コンベンション部プロモーション推進課		26年度事業費	6,445	千円
外国クルーズ客船受入事業（B）			27年度事業費	4,960	千円		
対象	クルーズ客	目的	スムーズに観光やショッピングを楽しみ、クルーズ客の満足度が上がる				
前年度実施内容	【外国クルーズ客船受入事業にかかる広報媒体部分】						
	<ul style="list-style-type: none"> ・記念品制作（うちわ7万枚、メッセージカード2,750セット） ・クーポン付チラシ制作90枚 ・店舗サイン制作200枚 ・ポスター制作16枚 ・ウェルカムボード制作4枚 ・マップ制作15万部 						
	指標内容	26年度目標	26年度実績	達成率	事業の進捗状況		
活動の指標	パンフレットの作成	—	—	—	A		
成果の指標	外航クルーズ客船の寄港回数	110	99	—			
事業の進捗状況に関する補足	平成25年度に激減したクルーズ寄港数は平成26年度に大幅に回復し増加基調が続いている。						
クルーズ船誘致活動の推進・受入体制の充実強化③		所管課	港湾局港湾振興部クルーズ課		26年度事業費	28,223	千円
（クルーズ船誘致事業）（調査振興費）			27年度事業費	9,283	千円		
対象	船社・旅行代理店等	目的	クルーズ船の誘致				
前年度実施内容	<ul style="list-style-type: none"> ・クルーズ船誘致事業 海外船社、国内クルーズ関係企業等に訪問し、寄港誘致 海外コンベンションに多数参加し、クルーズ港としての博多港をPR ・博多港発着クルーズ振興 市民クルーズ、市民船内見学会等を実施 ・クルーズ船受入事業 中央ふ頭内でのアクセス改善及び箱崎ふ頭での大型船受入対応整備等 						
	指標内容	26年度目標	26年度実績	達成率	事業の進捗状況		
活動の指標	船社・旅行代理店等訪問数	50	73	146%	B		
成果の指標	外航クルーズ客船寄港回数（暦年）	110	99	90%			
事業の進捗状況に関する補足	—						